

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

記述, 描図, 選択, 計算, 論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

今年は描図(I 問3)と論述問題(IV 問6)が出題された。

その他トピックス

昨年に続き, アンモニアソーダ法が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 描図 計算	状態図 混合気体	化学	水の状態図の意味, 二酸化炭素の状態図の描図, 混合気体の燃焼後や冷却後の全圧や分圧, 生じた水の物質量を求める内容である。	標準
II	選択 記述 計算	化学結合, 気体の溶解度, 電離平衡, 無機工業化学	化学	二酸化炭素を題材に, 極性分子と無極性分子, ドライアイスの結晶, 気体の溶解度の計算, 炭酸の水素イオン濃度に関する内容である。また, アンモニアソーダ法についても問われている。オゾン分子の極性は高校化学の範囲内では, 判断できない。	標準
III	記述	脂肪族化合物	化学	分子式 $C_5H_6O_4$ の脂肪族ジカルボン酸や脂肪族エステルの構造決定の内容である。問1, 問2は複数の解答が考えられる。	やや難
IV	記述 計算 選択 論述	天然高分子 合成高分子	化学	天然繊維, 化学繊維である再生繊維, 半合成繊維, 合成繊維に関して, 計算問題などを含んだ内容である。ポリ乳酸の生分解の論述も問われている。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 基礎的な事項を十分整理しておくこと。
3. 論述問題は努めて平素から書く練習をしておくこと。
4. 問題演習を十分に行っておくこと。